

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-322998

(43) 公開日 平成9年(1997)12月16日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
D 0 6 F 57/00	3 3 0		D 0 6 F 57/00	3 3 0

審査請求 未請求 請求項の数 7 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-163876

(22) 出願日 平成8年(1996)6月4日

(71) 出願人 000109129

株式会社ダイヤコーポレーション
東京都中野区中野2丁目2番4号

(72) 発明者 豊沢 学

東京都中野区中野2丁目2番4号 株式会
社ダイヤコーポレーション内

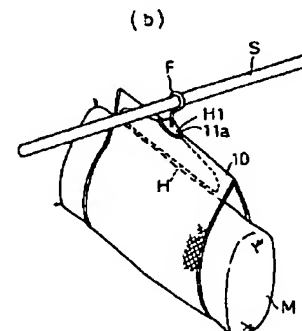
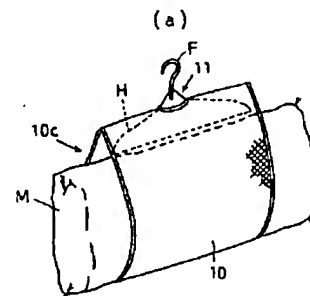
(74) 代理人 弁理士 佐渡 昇

(54) 【発明の名称】 干し具

(57) 【要約】

【課題】 枕等を大きく変形させることなく干すことができ、使用時における取扱いが簡単であるとともに不使用時における収納性に優れ、しかも作成が容易な干し具を提供する。

【解決手段】 通気性がよく、かつ折り畳み自在な素材例えば網状素材等により形成され、左右両側部が開口した筒形の基部10の上部中央に、ハンガーHのフックFを挿通するための孔11を設けてある。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 通気性がよく、かつ折り畳み自在な素材より形成され、左右両側部が開口した筒形の基部と、この基部の上部の中央に設けられ、ハンガーのフックを挿通するための孔とを具備したことを特徴とする干し具。

【請求項2】 前記基部は横長に形成されていることを特徴とする請求項1記載の干し具。

【請求項3】 前記基部は網状の素材よりなり、基部の上部の網目が基部の中央部の網目よりも細くなっていることを特徴とする請求項1または2記載の干し具。

【請求項4】 前記基部は網状の素材よりなり、基部の下部の網目が基部の中央部の網目よりも細くなっていることを特徴とする請求項1、2、または3記載の干し具。

【請求項5】 前記孔の縁にはバイアステープが設けられており、このバイアステープは孔の縁から上方へテーパー状に突設されていることを特徴とする請求項1、2、3、または4記載の干し具。

【請求項6】 前記基部の下部の中央には被掛け部が設けられていることを特徴とする請求項1、2、3、4、または5記載の干し具。

【請求項7】 前記被掛け部は補強材で補強されていることを特徴とする請求項6記載の干し具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は枕等を干すのに適した干し具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、枕等の干し具としては、実開平6-85691号公報、実開平6-72591号公報に開示されたものがある。

【0003】図8は実開平6-85691号に係わる干し具の使用状態を示す正面図、図9は同じく不使用状態を示す部分切斷正面図である。

【0004】これらの図に示すように、この干し具は、収納袋部1と、この収納袋部1内に収納された支持部2と、この支持部2に設けられ、収納袋部1の上方に突出したフック2aと、支持部2に吊り下げられた紐体3とを有している。紐体3には、複数の摺動体4が取り付けられている。1aは収納袋部1の下部に設けられたチャックであり、収納袋部1の袋口を形成している。

【0005】このような干し具は次のようにして使用する。

【0006】まず、収納袋部1から紐体3を引き出し、これら紐体3の間に枕Mを通す。次いで、摺動体4で紐体3を絞る、枕Mを紐体3に固定する。その後、フック2aを物干し竿等へ引っ掛けることによって、枕Mを干すことができる。

【0007】枕Mを干し終えた後は、物干し竿等からフック2aを外して干し具を取り込み、摺動体4を摺動さ

せ紐体3を緩めて、枕Mを抜き取る。そして、図9に示すように、紐体3および摺動体4を収納袋部1内に収納して、チャック1aを閉じる。これにより、不使用時には干し具をハンガーとして使用することができる。

【0008】図10は実開平6-72591号に係わる干し具を示す平面図、図11は同じく使用状態説明図である。

【0009】図10に示すように、この干し具は、長方形の基部5と、この基部5の周縁に設けられた綿テープ6と、この綿テープ6に設けられた留め具7と、基部5の上下にそれぞれ設けられた吊り紐8とを有している。

【0010】このような干し具は例えば次のようにして使用する。

【0011】まず、図11に示すように、枕Mを包むようにして基部5を2つ折りにし、その上端を留め具7で連結して枕Mを保持する。次いで、吊り紐8、8を物干し竿S等へ通すことによって、枕Mを干すことができる。

【0012】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来の干し具には次のような問題があった。

【0013】図8、図9に示した干し具では、枕Mが紐体3で局部的に保持されるようになっていたので、枕Mに紐体3がくい込みやすく、したがって、枕Mが大きく変形してしまうという問題があった。

【0014】また、枕Mを紐体3で保持する際や紐体3から抜き取る際には、摺動体4をいちいち摺動させて紐体3を絞ったり緩めたりしなければならず、操作が煩雑であった。さらに、干し具として使用した後に、ハンガーとして利用しようとする場合には、図9に示したように、紐体3および摺動体4を収納袋部1内に収納してチャック1aを閉じなければならず、その作業も面倒なものであった。

【0015】しかも、この干し具を普通のハンガー（家庭において一般に使用されているハンガー）として利用することができるようにするためには、その幅を普通のハンガーと同程度にする必要があるが、この干し具の幅を普通のハンガーと同程度にしたのでは、紐体3、3（図8参照）の間隔が狭いものとなるため、比較的小さな枕については安定した状態で干すことが可能であるかもしれないが、大きな枕についてはその両端部分が紐体3から大きくはみ出すこととなるため安定した状態で干すことは不可能である。干し具の幅を大きくして紐体3、3の間隔が大きくなるようにすれば、大きな枕を比較的安定した状態で干すことは可能であるかもしれないが、そうすると逆に、小さな枕は干せなくなってしまう。また、干し具の幅を大きくすると、普通のハンガーとしては利用できなくなるし、したがってまた収納性も悪くなってしまう。

【0016】図10、図11に示した干し具では、使用時には、枕Mを包むようにして基部5を2つ折りにし、その上端を留め具7で連結して枕Mを保持する必要があるから、その操作が煩雑である。この操作は、予め基部5を2つ折りにしてその上端を留め具7で連結し、基部5を筒状としておくことによって簡略化することが可能であるかもしれない。

【0017】しかしながら、いずれにしても、基部5が2つ折りにされてその上端が留め具7で連結されることによって枕Mが保持される構造であることに変わりはないため、干し具および枕Mが風で煽られて大きく揺れると留め具7が外れてしまうおそれがあり、安心して枕を干しておくことができない。

【0018】また、この干し具は、不使用時における収納性が必ずしも良いとはいえない。

【0019】すなわち、この干し具は、不使用時には折り畳んで収納しておくことが可能ではあるけれども、折り畳んだ際に、基部5の上下縁に設けられた吊り紐8や綿テープ6に設けられた留め具7が嵩張るため、収納性が必ずしも良くはない。また、吊り紐8や留め具7があ

ってこれらが嵩張るため、折り畳みにくい。

【0020】さらに、上述した従来の干し具は、いずれも、部品点数が多く、作成が煩雑であるという問題も有していた。

【0021】本発明の目的は、以上のような問題を解決し、枕等を大きく変形させることなく干すことができ、使用時における取扱いが簡単であるとともに不使用時における収納性に優れており、しかも、作成が容易な干し具を提供することにある。

【0022】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために請求項1記載の干し具は、通気性がよく、かつ折り畳み自在な素材より形成され、左右両側部が開口した筒形の基部と、この基部の上部の中央に設けられ、ハンガーのフックを挿通するための孔とを具備したことを特徴とする。

【0023】請求項2記載の干し具は、請求項1記載の干し具において、前記基部は横長に形成されていることを特徴とする。

【0024】請求項3記載の干し具は、請求項1または2記載の干し具において、前記基部は網状の素材よりなり、基部の上部の網目が基部の中央部の網目よりも細くなっていることを特徴とする。

【0025】請求項4記載の干し具は、請求項1、2、または3記載の干し具において、前記基部は網状の素材よりなり、基部の下部の網目が基部の中央部の網目よりも細くなっていることを特徴とする。

【0026】請求項5記載の干し具は、請求項1、2、3、または4記載の干し具において、前記孔の縁にはバ

孔の縁から上方へテーパ状に突設されていることを特徴とする。

【0027】請求項6記載の干し具は、請求項1、2、3、4、または5記載の干し具において、前記基部の下部の中央には被掛け部が設けられていることを特徴とする。

【0028】請求項7記載の干し具は、請求項6記載の干し具において、前記被掛け部は補強材で補強されていることを特徴とする。

【0029】

【作用効果】請求項1記載の干し具は例えば次のようにして使用する。

【0030】まず、普段家庭内で使用しているハンガーを用意し、このハンガーを基部の開口から基部内へ入れてそのフックを基部の上部中央に形成された孔から突出させる。次いで、基部内へ干し物、例えば枕等を入れ、フックを物干し竿等へ引っ掛けることによって、枕等を干すことができる。基部は通気性の良い素材で筒形に形成されているので、枕等を大きく変形させることなく良好に、しかも安心して干すことができる。

【0031】すなわち、この請求項1記載の干し具によれば、普段家庭内で使用しているハンガーを利用することによって簡単に枕等を干すことができる。

【0032】枕等を干し終えた後は、物干し竿等からフックを外して干し具を取り込み、基部内から枕等を取り出すとともにハンガーを抜き取る。

【0033】基部は、折り畳み自在な素材で筒形に形成されており、図10に示した従来の干し具における留め具7や吊り紐8が設けられてはいないので、ハンガーを抜き取った後は容易に小さく折り畳むことができ、適所に収納することができる。

【0034】一方、干し具から抜き取ったハンガーは、通常通り洋服掛けとして使用することができる。

【0035】すなわち、この請求項1記載の干し具は、普段家庭内で使用しているハンガーを有効に利用し得る構成、すなわち、筒形基部の上部中央に、ハンガーのフックを挿通するための孔を設けた構成となっているので、干し具自身はその構成が簡素化されて小さく折り畳むことができるとともに、上記ハンガーはそのまま普段通り家庭内で使用することができるから、極めて収納性に優れている。

【0036】また、請求項1記載の干し具は、例えば次のようにして簡単に作成することができる。

【0037】まず、四角形の素材を用意し、その上下端を縫着して左右両側部が開口した筒形の基部を作成する。

【0038】次いで、この基部の上部の中央に、ハンガーのフックを挿通するための孔を形成する。

【0039】これによって干し具が完成する。

【0040】このように、請求項1記載の干し具は、簡

単に作成することができる。

【0041】しかも、従来の干し具における専用の支持部2や紐体3(図8)、あるいは留め具7や吊り紐8(図10)が不要であるから、その分、部品点数が少なくて済み、生産性に優れている。

【0042】請求項2記載の干し具によれば、請求項1記載の干し具において、基部が横長に形成されているので、横長形状の枕等を安定した状態で干すことができる。

【0043】請求項3記載の干し具によれば、請求項1または2記載の干し具において、基部は網状の素材よりなっているので、通気性が高く、基部に保持された枕等が乾燥しやすいという利点が得られる。

【0044】さらに、基部の上部の網目が基部の中央部の網目よりも細かくなっているので、基部に対してハンガーを出し入れする際に、ハンガーが基部の上部に引っ掛かりにくくなり、ハンガーの出し入れをスムーズに行なうことができる。

【0045】請求項4記載の干し具によれば、請求項1, 2, または3記載の干し具において、前記基部が網状の素材よりなり、基部の下部の網目が基部の中央部の網目よりも細かくなっているので、次のような作用効果が得られる。

【0046】枕等の干し物は、基部によって吊るされた状態となるから、基部の下方向に行くにしたがって基部に対して強く接することとなる。

【0047】したがって、基部が網状の素材で構成されていると、基部の下方向に行くほど、干し物が、網状素材の網目からはみ出そうとする傾向が生じる。このため、網目が大きすぎると、干し物の網目からはみ出し量が大きくなってしまふ。

【0048】一方、網状の素材は、その網目が小さくなるほど、その通気性が小さくなる傾向がある。このため、網状の素材で構成されている基部の網目が、基部全体に亘って小さすぎると、通気性が低下してしまうおそれがある。

【0049】これに対して、請求項4記載の干し具によれば、基部の下部の網目が基部の中央部の網目よりも細かくなっている(逆にいえば中央部の網目が下部の網目よりも大きくなっている)ので、干し物が網目からはみ出し難くなって変形しにくくなると同時に、所望の通気性が得られることとなる。

【0050】請求項5記載の干し具によれば、請求項1, 2, 3, または4記載の干し具において、孔の縁にバイアステープが設けられているので、孔縁が補強されて破損しにくくなるという効果が得られる。

【0051】さらに、ハンガーのフックを孔に挿通する際に、フックが孔の縁に引っ掛かりにくくなるので、挿通し易くなるという効果も得られる。

【0052】しかも、バイアステープは、孔の縁から上

方へテーバ状に突設されているので、次のような作用効果が得られる。

【0053】すなわち、物干し竿等へ干し具を吊り下げるためにフックを持ち上げると、フック下方に位置するハンガーの首部分がテーバ状のバイアステープの内側に当接することとなり、ハンガーに対する基部のずれが抑えられることとなる。

【0054】したがって、この請求項5記載の干し具によれば、安定した吊り下げ状態が得られる。

【0055】請求項6記載の干し具によれば、請求項1, 2, 3, 4, または5記載の干し具において、基部の下部の中央に被掛け部が設けられているので、他の吊下体やさらにもう一つの本体の干し具を、この被掛け部に連結して吊り下げることができる。

【0056】したがって、例えばベランダ等の狭いスペースにおいても場所を取らずに複数個の枕等を干すことができるという効果が得られる。

【0057】さらに、この請求項6記載の構成と上述した請求項4記載の構成とを組み合わせただけの場合には、次のような作用効果が得られる。

【0058】すなわち、例えば、さらにもう一つの本体の干し具を被掛け部に連結して吊り下げた場合、基部はその被掛け部において下方向に引っ張られることとなるが、基部の下部の網目が比較的細かくなっているので、その分、基部の伸びが軽減されることとなる。

【0059】したがって、他の吊下体やさらにもう一つの本体の干し具を被掛け部に連結して吊り下げた場合でも、基部の形が崩れにくくなり、枕等が変形しにくくなるという効果が得られる。

【0060】請求項7記載の干し具によれば、請求項6記載の干し具において、被掛け部が補強材で補強されているので、複数個の干し具を上下方向に連ねて吊り下げた場合でも、その重さに耐えることができ、より多くの枕等を同時に干すことができるという効果が得られる。

【0061】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

【0062】<第1の実施の形態>図1は本発明に係る干し具の第1の実施の形態を示す斜視図、図2は長方形に裁断された素材の平面図である。

【0063】図1において、10は通気性がありかつ折り畳み自在な素材Aよりなる基部であり、左右両側部10c、10dが開口した筒形に形成されている。本実施の形態では、通気性のよい素材として網状の素材を用いているが、これに限られるものではない。また、網目の大きさは、この実施の形態においては均一であるが、例えば後述する第2の実施の形態におけるように適宜網目の大きさを変えることもできる。

【0064】基部10の左右両側部10c、10dの開口縁にはバイアステープ15が設けられている。

【0065】11は基部10の上部10aの中央に形成された平面視略楕円形の孔であり、普段家庭内で使用されているハンガーのフックを挿通することが可能な大きさとなっている。この孔11の縁にはバイアステープ11aが設けられており、このバイアステープ11aは、孔11の縁から上方ヘテバ状に突設されている。

【0066】このような干し具は、例えば次のようにして作成される。

【0067】まず、図2に示すように、長方形の素材Aを用意し、その上下端A1、A2を縫着して連結する。これにより、左右両側部10c、10dが開口した筒形の基部10が作成される。

【0068】次いで、基部10の上部10aの中央に孔11を形成する。

【0069】その後、両側部10c、10dの開口縁、および孔11の縁にバイアステープを15、11aを縫着する。これにより、干し具が完成する。

【0070】以上のように、この干し具は、簡単に作成することができる。

【0071】しかも、従来の干し具における専用の支持部2や紐体3（図8）、あるいは留め具7や吊り紐8（図10）が不要であるから、その分、部品点数が少なくて済み、生産性に優れている。

【0072】なお、本実施の形態では孔11の縁と基部10の左右両側部10c、10dの開口縁とにそれぞれバイアステープ11a、15を設けたが、これらのバイアステープ11a、15は必ずしも設けなくてもよい。これらバイアステープを設けない場合には、より一層簡単に干し具を作成することができる。

【0073】また、基部10は、予め筒状に形成されている素材を所定の長さに切断することによっても作成することができる。

【0074】さらに、孔11は、素材に予め形成しておいてもよい。

【0075】図3（a）（b）、図4（a）（b）は、いずれも使用状態を説明するための斜視図である。

【0076】本実施の形態の干し具は次のようにして使用する。

【0077】まず、普段家庭内で使用しているハンガーHを用意し、図3（a）に示すように、基部10の開口の一方（図では左側部10cの開口）を広げて基部10内へ入れ、図3（b）に示すように、フックFを孔11から突出させる。

【0078】次いで、図4（a）に示すように、基部10内に干し物（例えば枕M）を入れる。なお、干し物としては、他に座布団、クッション、縫いぐるみ等を入れることができる。

【0079】その後、図4（b）に示すように、フックFを物干し竿S等へ引っ掛けることによって、枕M等を干すことができる。基部10は通気性の良い素材で筒形

に形成されているので、枕M等を大きく変形させることなく良好に干すことができる。しかも、基部10は図11に示した従来のもののようによ留め具7によって筒状に形成されているわけではないので、多少風が強い日にも安心して干すことができる。

【0080】すなわち、この実施の形態の干し具によれば、普段家庭内で使用しているハンガーHを利用することによって簡単に枕M等を干すことができる。

【0081】枕Mを干し終えた後は、物干し竿S等からフックFを外して干し具を取り込み、基部10内から枕Mを取り出すとともに、ハンガーHを抜き取る。

【0082】基部10は、折り畳み自在な素材で筒形に形成されており、図10に示した従来の干し具における留め具7や吊り紐8が設けられてはいないので、ハンガーHを抜き取った後は容易に小さく折り畳むことができ、適所に収納することができる。

【0083】一方、干し具から抜き取ったハンガーHは、通常通り洋服掛けとして使用することができる。

【0084】すなわち、この実施の形態の干し具は、普段家庭内で使用しているハンガーHを有効に利用し得る構成、すなわち、筒形基部10の上部中央に、ハンガーHのフックFを挿通するための孔11を設けた構成となっているので、干し具自身はその構成が簡素化されて容易に小さく折り畳むことができるとともに、ハンガーHはそのまま普段通り家庭内で使用することができるから、極めて収納性に優れている。

【0085】また、干し具の孔11の縁にはバイアステープ11aが設けられているので、孔縁が補強されて破損しにくくなるとともに、フックFを孔11に挿通する際、フックFが孔11の縁に引っ掛かりにくくなるので、フックFを挿通し易い。

【0086】しかも、バイアステープ11aは、孔11の縁から上方ヘテバ状に突設されているので、次のような作用効果が得られる。

【0087】すなわち、物干し竿S等へ干し具を吊り下げのためにフックFを持ち上げると、図4（b）に示すように、フック下方に位置するハンガーの首部分H1がテバ状のバイアステープ11aの内側に当接することとなり、ハンガーHに対する基部10のずれが抑えられることとなる。

【0088】したがって、この干し具によれば、安定した吊り下げ状態が得られる。

【0089】なお、基部10の縦横寸法は、上述したような使用状態が得られる範囲で任意に設定することができる。縦長状態にも横長状態にも構成することができる。図5に示すように、基部の幅Wを広くして横長に形成すれば（横長に形成した基部を符号20で示す）、横長の枕Mを一層安定した状態で保持することができる。

【0090】＜第2の実施の形態＞図6は本発明に係る干し具の第2の実施の形態を示す斜視図である。

【0091】この実施の形態の干し具が、上述した第1の実施の形態の干し具と異なる点は、図6に示すように、基部30の上部30aおよび下部30bの網目が基部30の中央部30cの網目よりも細かくなっている点、基部30の下部30bの中央に被掛け部35が設けられている点にある。

【0092】図6において、基部30の上部30a、下部30bは、通気性が大きく損なわれない程度の細かい網目となっている。

【0093】被掛け部35は高強度の布よりなり、その中央部に弛みをもたせるようにして両端部分が基部30に縫着されている。36は被掛け部35を補強するための高強度の布からなる補強材であり、基部30の内側より被掛け部35に当てがわれて縫着されている。結果として、被掛け部35および補強材36は基部30を挟み込むようにして逢着されている。

【0094】このような干し具によれば、前述した第1の実施の形態の干し具によって得られる作用効果に加えて、さらに次のような作用効果が得られる。

【0095】(i) 基部30の上部30aの網目が中央部30cの網目よりも細かくなっているため、基部30に対してハンガーH(図3参照)を出し入れする際に、ハンガーH(特にそのフックF)が基部の上部30aに引っ掛かりにくくなり、ハンガーHの出し入れをスムーズに行なうことができる。

【0096】(ii) 枕M等の干し物は、基部によって吊るされた状態となるから、基部の下方に行くにしたがって基部に対して強く接することとなる。

【0097】したがって、基部が網状の素材で構成されていると、基部の下方に行くほど、干し物が、網状素材の網目からはみ出そうとする傾向が生じる。このため、網目が大きすぎると、干し物の網目からはみ出し量が大きくなってしまう。

【0098】一方、網状の素材は、その網目が小さくなるほど、その通気性が小さくなる傾向がある。このため、網状の素材で構成されている基部の網目が、基部全体に亘って小さすぎると、通気性が低下してしまうおそれがある。

【0099】これに対して、この第2の実施の形態の干し具によれば、基部30の下部30bの網目が基部の中央部30cの網目よりも細かくなっている(逆にいえば中央部30cの網目が下部30bの網目よりも大きくなっている)ので、枕M等の干し物が網目からはみ出し難くなって変形しにくくなると同時に、所望の通気性が得られることとなる。

【0100】(iii) 基部30の下部の中央に被掛け部35が設けられているので、図7に示すように、さらにもう一つの本件の干し具40(あるいは他の任意の吊下体、以下同じ)を、この被掛け部35に連結して吊り下げることができる。

【0101】したがって、例えばベランダ等の狭いスペースにおいても場所を取らずに複数個の枕M等を干すことができる。

【0102】(iv) 図7に示したように、例えば、さらにもう一つの本件の干し具40を被掛け部35に連結して吊り下げた場合、基部30はその被掛け部35において下方向に引っ張られることとなるが、基部30の下部30bの網目が比較的細かくなっているため、その分、基部30の伸びが軽減されることとなる。

【0103】したがって、さらにもう一つの本件の干し具40を被掛け部35に連結して吊り下げた場合でも、基部30の形が崩れにくくなり、枕M等が変形しにくくなる。

【0104】(v) 被掛け部35が補強材36で補強されているので、複数個の干し具を上下方向に連ねて吊り下げた場合でも、その重さに耐えることができ、より多くの枕M等を同時に干すことができる。

【0105】以上、本発明の実施の形態について説明したが、本発明は上記の実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内において適宜変形実施可能である。

【0106】例えば、

①基部は、布製、合成樹脂製等の様々な素材により形成することができる。

【0107】②基部は左右両側部が開口した筒形に形成されていればよく、例えば、基部の中央部が左右両側部に比べて太く形成されているもの(樽形状のもの)等でもよい。

【0108】③バイアステープは、色彩を施したものをを用いてもよい。このような色彩を施したバイアステープを用いることにより、左右両側部の開口や孔の位置が目視しやすくなり、ハンガーを出し入れする際の操作等がより行ないやすくなる。

【0109】④被掛け部35の形状は任意であり、例えばループ状にしても良い。

【0110】

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る干し具の第1の実施の形態を示す斜視図。

【図2】長方形に裁断された素材の平面図。

【図3】(a)(b)は使用状態説明図。

【図4】(a)(b)は使用状態説明図。

【図5】変形例を示す斜視図。

【図6】本発明に係る干し具の第2の実施の形態を示す斜視図。

【図7】使用状態説明図。

【図8】従来技術の説明図。

【図9】従来技術の説明図。

【図10】従来技術の説明図。

【図11】従来技術の説明図。

11

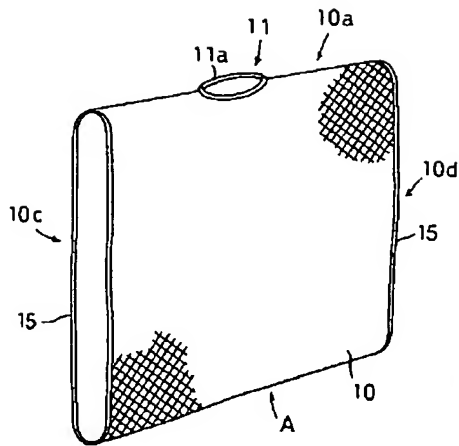
12

【符号の説明】

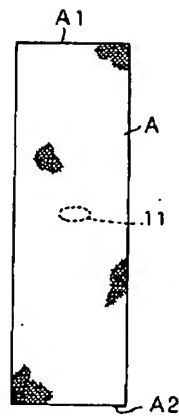
10 基部
10a 上部
11 孔
20 基部
30 基部
30a 上部

30b 下部
30c 中央部
35 被掛け部
36 補強材
H ハンガー
F フック

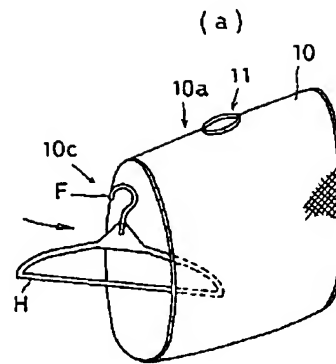
【図1】



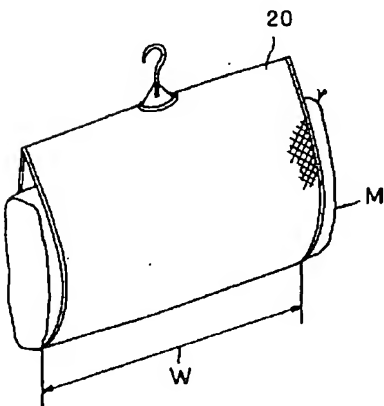
【図2】



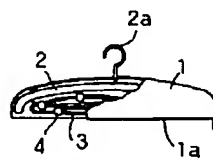
【図3】



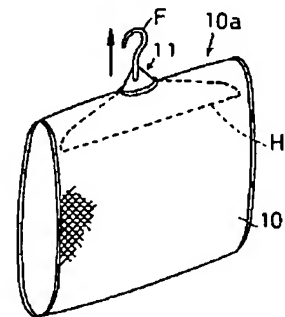
【図5】



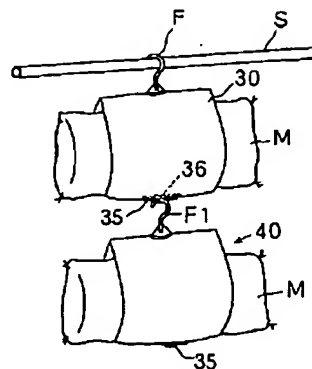
【図9】



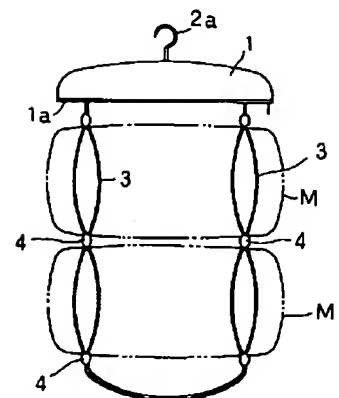
(b)



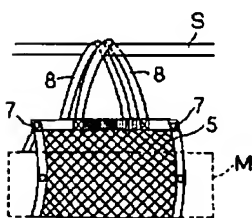
【図7】



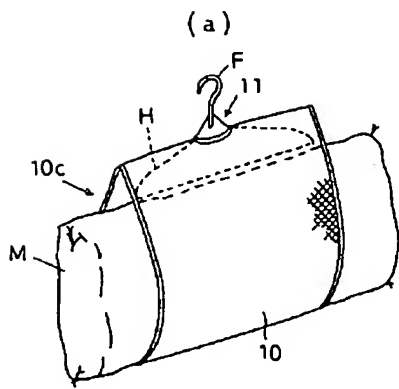
【図8】



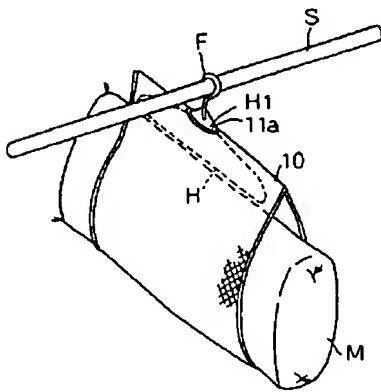
【図11】



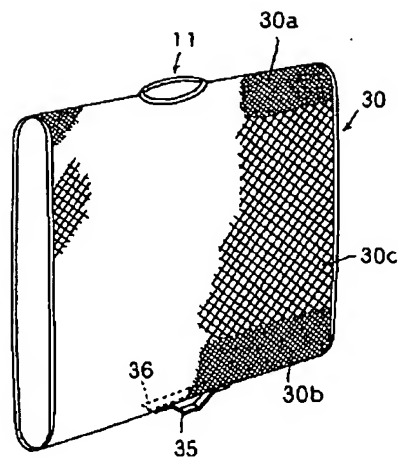
【図4】



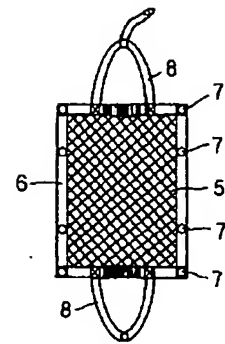
(b)



【図6】



【図10】



DERWENT-ACC-NO: 1998-094854

DERWENT-WEEK: 200126

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Air permeable drying tool for pillow
- has hole provided at top central part of cylindrical
base through which hook of carrier is inserted

PRIORITY-DATA: 1996JP-0163876 (June 4, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 09322998 A		December 16, 1997	N/A
008	D06F	057/00	
JP 3160529 B2		April 25, 2001	N/A
008	D06F	057/00	

INT-CL (IPC): D06F057/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 09322998A

BASIC-ABSTRACT:

The drying tool includes a foldable cylindrical base (10) made from net-like material which opens at both left and right sides. A hole (11) is provided in the top central part of the cylindrical base through which a hook (F) of a carrier (H) is inserted.

USE - The tool is used to dry pillows.

ADVANTAGE - Simplifies handling. Excels in productivity.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.4/11